

第373号 令和元年11月

# 東京都農業会議情報

編集及び発行 (一社)東京都農業会議

渋谷区代々木2-10-12  
TEL 03-3370-7145

## 三重県四日市市の農委会活動などを研究

農業委員会会長研究会開く

都農業会議は、10月29日(30日)にかけて、三重県四日市市および菰野町にて農業委員会会長研究会を開きました。

1日目は、四日市市農業委員会(藤谷克彦会長)より、四日市市の農業の概要や農業委員会活動について説明を受けました。

さらに、四日市市は特定市であることから、生産緑地の状況についても報告を受けました。

現地研究では、四日市市の山北敬次氏のポインセチアなどを中心とした花き経営と内田直人氏のイチゴやブドウの果樹経営を見学しました。

山北氏は、生産した花きを関西だけでなく、東京にも出荷しています。

内田氏は農外からの新規就農者で、自らの農業経営につ



自らの農業経営について話す山北氏(左)

いて「地域の皆さんに支えられているので、地域に貢献していきたい」と話しました。

2日目は、菰野町農業委員会(松岡良成会長)を訪ね、農業や農業委員会活動について説明を受けたほか、菰野町の特産であるコモノダケの生産現場において障害者の就労機会の確保を図る取り組みについて紹介がされました。

最後にJ Aみえきた四季彩西部店の直売所を見学しました。

## 女性農業者の農業経営を研究

女性農業委員研修会

都農業会議は、10月18日にパルテノン多摩にて、多摩市農業委員会(小暮和幸会長)の協力を得て、女性農業委員研修会を開きました。

最初に、多摩市農業委員会の女性委員である青木幸子委員、伊藤千春委員、武内好恵委員、澤登早苗委員から、女性委員の活動について説明を受けました。

その後、現地研究として青木委員、日野市の石坂昌子氏と新規就農者の川名桂氏の農

業経営を見学し参加者は熱心に質問していました。参加した女性委員は「他市の女性委員と交流できる良い機会となった。今後このような研修会に参加したい」と感想を話していました。



自らの農業経営について話す青木委員(左)

## 11月1日 農地中間管理事業の改正法が施行

農地中間管理事業の改正法が11月1日に施行されました。

は、事業対象農地が農業振興地域から市街化区域以外に広がります。

この改正により、貸借手続きの一部が簡素化され、貸付けまでの期間短縮が可能となりました。加えて、毎年の利用状況報告書提出の義務がなくなりました。また、来年4月1日から

東京都農業会議では、担い手の規模拡大や新規就農者の確保・育成のため、市町村や農業委員会の皆さんと協力して、農地中間管理事業により農地の活用を進めてまいります。

## あぜみち

▼楽しみなTVドラマが始まった。パリのレストランで二ツ星を取った男が東京でフレンチの三ツ星に挑む。料理人たちの物語だ。▼帰国早々、頑固にフランス産高級食材に拘る彼は、料理教室の主婦に一蹴される。華麗なパスタにトッピングしたトリュフを、あつさり「ありきたり」と評され、バターとハーブを完璧に使いこなすと自負する彼が「味噌と醤油を渡されて一から出直しだ」と呟く。そう、日本人の舌には、日本の食材と日本の産んだ発酵調味料。時折登場する実に旨そうな糠漬けもニクイ!▼そして、2万円のコース料理のメインに「茄子」を起用。日本の野菜は「質が高い。だからメインになる」。そう言っ

てほ場めぐりがはじまる。もぎ取りガブリつく表情。スパッと包丁を入れた美しい切り口。滴る水がキラキラ輝く。農業者が丹精した芸術品だ。茄子の根元に生えたカタバミも採用。同じ土に生えたものは相性がいい。▼セリフもカメラも食材への敬意と愛を感じて心が温かくなる。東京産食材も三ツ星メニューを支えるに違いない。

### 都市農地貸借円滑化法の状況などについて研究

農地部会長研究会

都農業会議は、9月26日にJ A東京みなみ日野支店にて、日野市農業委員会（遠藤貴義会長）の協力を得て、農地部会長研究会を開きました。

最初に本会より都内の生産緑地の下限面積引き下げ条例や指定基準の改正の状況、また、特定生産緑地の指定状況

などについて説明しました。

次に、日野市農業委員会から同市の農業委員会活動や都市農地貸借円滑化法の活用状況について説明を受けました。

現地研究として、都市農地貸借円滑化法を活用し新規就農した川名桂氏や水田を借りた馬場寛明氏の農業経営、さ

### 青梅市の新規就農者等に対する支援などを研究

経営関係部会長研究会

東京都農業会議は10月10日、青梅市にて農業委員会の経営関係部会長らを対象とする研究会を開き、各区市町村から37人が参加しました。

「新規就農者等に対する支援と農業委員会活動」をテーマとする室内研修を終えた後、同市内で新規就農した農業者ら4経営体の取組みを見学しました。

高瀬翼氏は農業法人への勤務を経て就農しました。野菜を栽培し、漬物業者やスーパー、J A直売所、学校給食などに出荷しています。

永易征道氏は、有機J A S 認証を取得して野菜を栽培しています。「新規就農者が苦労するのは、農地の確保、販路の確保、作業場の確保」だと話しました。平成28年に農地を借り入

らに、同市の農業委員である馬場裕真氏の野菜経営、遠藤貴義会長のブドウ経営を見学しました。



新規就農の経緯や農業経営について話す川名桂氏

れて新規就農した繁昌知洋氏は、珍しい野菜を積極的に導入しています。

神事などに使うサカキを生産、出荷する株式会社彩の榊（佐藤幸次代表取締役）は、近年葬儀社からの受注を増やし、販路を拡大しているとのことでした。

### 観光資源に農地・農業を活用した地域振興

南多摩地区農業委員会協議会

南多摩地区農業委員会協議会（吉川庄衛会長）は10月24日に千葉県柏市で「手賀沼アグリビジネスパーク事業」などを現地視察しました。

同事業は地域農業者や民間、N P O 等市民主体で検討を進め、手賀沼を観光資源に農地・農業を活用した

### 理事会・常設審議委員会だより

東大和市で現地研究

#### 理事会

10月17日、東大和市の小企業大学校東京校にて理事会を開催した。

- ①「無料職業紹介事業」許可申請に伴う経過報告
- ②会長及び専務理事の職務執行状況を報告
- ③定款第42条第2項に基づく常設審議委員会での処理件数を報告した。

#### 第7回常設審議委員会

理事会終了後に開催。

- ①9月の農地転用許可状況を東京都より報告し、
- ②10月の農地中間管理権の取得と農地利用配分計画による使用収益権の設定状況を発表した。



東大和市では農業者を交えて意見交換を行った

令和2年度東京都農業会議事業・予算の構想（案）について協議した。

東大和市の農業振興施策・農業委員会活動を研究し、①トマトの養液栽培に取り組む経営、②若手農業者の経営を見学した。



経営部会長 高瀬翼さんの圃場を見学



柏市の担当者から事業の概要を聞く

### 都農業経営者クラブが

### アメリカの水耕栽培施設などを視察

都農業経営者クラブ（眞利子伊知郎会長）は、10月1日～7日に、アメリカニューヨーク州およびニュージャージー州にてアメリカ都市近郊農業事情視察を開きました。

都内から農業者を中心に23人が参加しました。視察1日目となった10月2日は、最初にニュージャージー州ハッケンサク市のグリーンズドウグッド社が行う水耕栽培を見学しました。

同社は環境に配慮した水耕栽培により、バジル、ケール、ルッコラ、パセリなどのほか、日本でもなじみの深いワサビ菜や水菜も生産しています。



グリーンズドウグッド社での見学の様子



ORTファームの担当者（右から2人目）

水耕栽培であるため、厳しい水質管理を徹底しており、定期的に行政の検査を受けています。

栽培は、専用の部屋で播種し発芽させ、1週間から10日ほどで、垂直型水耕栽培施設に移動させ、播種から2週間程度で出荷するシステムとなっています。

出荷体制は鮮度にこだわり、出荷当日に収穫することとしており、出荷から2時間後には市場に並んでいるとのこと。

同社の垂直型水耕栽培施設は低コストで整備が可能で、一般のホームセンターなどで資材をそろえることができるそうです。低コスト化を実現させ生

み出した利益は、同社の特徴の一つである「自閉症スペクトラム症」の社員の雇用を支えています。

同社の担当者は「利益を設備投資に振り向けて、さらに規模拡大をする考え方もあるが、自閉症スペクトラム症の社員の雇用を優先したい」と話しました。

### 地域支援型農業

次に、ニュージャージー州チェスター市のORTファームを見学しました。

この農場では、CSA（地域支援型農業）という農業が実践されています。

CSA（地域支援型農業）とは、主に、消費者が前払いにより農業者と直接契約し、農産物を売買する仕組みです。

この農場ではオンラインで注文を受け、消費者が農



ホールフーズ・マーケット屋上の水耕栽培



青空市場での食育の様子

産物を受取りにくる仕組みを確立しています。

担当者は「CSAは前払いなので、農家にとっては安心。また、消費者にとっては、農家と直接話せたり、子供には良い食育となる」とメリットを話していました。

アメリカ3大スーパーマーケットの視察／スーパーマーケット屋上の水耕栽培

10月3日には、ニューヨーク市にて、アメリカの3大スーパーマーケットである「ホールフーズ・マーケット」、「トレーダー・ジョーズ」、「フェアウェイ」を見学しました。

特に、ブルックリン地区のホールフーズ・マーケットでは、スーパーマーケットの屋上で、ゴッサム・グ

リーン社による大規模な水耕栽培が行われており、生産物の一部は1階のスーパーにて販売されています。

### ニューヨークの青空市場

10月4日には、ニューヨーク市のユニオンスクエアにて農産物など青空市場を見学しました。ニューヨーク市にて最も規模の大きい青空市場となっています。

### サイエンス・バージ

次に、ハドソン川に浮かべた船に温室を積み、野菜などを栽培している「サイエンス・バージ」（科学の荷船）を見学しました。

このサイエンス・バージは、環境教育などを目的としており、野菜栽培は太陽光、風力、バイオ燃料の使用により、カーボン・ニュートラルを実現しています。



サイエンス・バージの担当者（左）

### 椿実の生産や活用状況などを現地研究

利島村農委会など

利島村農業委員会（小林春木会長）は、椿振興に関する計画づくりの一環として、九州にて現地研究を行いました。利島村農業委員および担当職員、東京都関連職場職員等計6人が参加し、10月27日から31日に長崎県、佐賀県を訪ねました。

長崎県は、東京都と生産量1、2位を争う椿実の生産県で、主産地の五島市、新上五島町を訪ね、生産や活用状況や課題について研究しました。また、同県農林技術開発センターでは、最

都農業法人協会（北島一夫会長）は、10月25日26日に東京都消費者月間実行委員会主催のイベント「見て、聞いて、話そう！交流フェスタ」に出展しました。東京都内産のミニシクラメンやパンジー、コニファーなどの緑化植物の苗約600ポットを販売し、多くの消費者が新鮮で良質な花苗の色合いなどを楽しんでいました。

近の研究成果などについて話しを聞きました。

佐賀県唐津市では、市内の椿生産の状況と椿の化粧品活用に取り組んでおり、ジャパンコスメティクスセンターを現地研究しました。



植栽事業を活用し約10年たった五島市の椿園

### 大島で「就農セミナー」開かれる

農業に関心のある島民などが集まる

11月1日に、大島町役場会議室で「就農セミナー」が開かれました。

大島で農業をしたい人など、農業に興味のある人が多数集まり、この催しには「伊豆大島 農ある島暮らし体験」で大島町を訪れていた3人も参加しました。

まず、大島町から「大島町の農業と農業委員会活動」について説明がありました。続いて「伊豆大島の農業の現状」について都農林水産総合センター大島事業所より説明がありました。その後、農業会議より「職業としての農業」お

### 台風19号等の大雨災害義援金の募集活動を実施

このたびの台風19号ならびに、その前後に発生した台風15号や17号、10月下旬の大雨等の災害では、国内の広範な範囲において多大な被害が発生しました。

このような状況に対し、農業委員会系統組織として被災した農業者等の今後の経営と生活の回復を図り、一日も早い復興を支援する

ため、義援金の募集活動を実施します。

送金先等は農業委員会事務局にお知らせしていただきます。農業委員ならびに農地利用最適化推進委員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

実施期間 令和元年11月11日（月）から12月20日（金）まで

よび「都内の新規就農者の状況」について説明をしました。



大島で農業をしたい人が集まりセミナーを受講

### 地域振興や農地の活用についての視察研修会を実施

榎原村

榎原遊休農地等対策推進委員会とジャガイモ栽培組合員など15人が、10月3日に地域振興や農地活用についての視察研修会を行いました。

自治会を中心に、地域外の人にも呼びかけて、過疎化が進む地域の活性化に取組む八王子市小津倶楽部を訪れ、共通の課題などについて話し合いました。

次に、同市で、農福連携による農業経営を行う（株）グッドホームを現地研究しました。

午後は瑞穂町に移動し、清水牧場では、地域に根ざした牧場経営と6次産業化につい



小津倶楽部のメンバーとの話し合い

て、桐原農場では新規就農者の立場から農地の確保や参入後の課題などについて話しを聞きました。

榎原村の現状の課題、今後の振興施策を考える上で有効な研修会となりました。

12月～1月の日程	
12・17 (火)	常設審議委員会
12・18 (水)	農地流動化・利用集積現地研
1・9 (木)	区内農委検討会
1・14 (火)	島しょ農委検討会
1・16 (木)	西農委検討会
1・17 (金)	常設審議委員会
1・20 (月)	南農委検討会
1・22 (水)	北北農委検討会
1・24 (金)	北南農委検討会
1・27 (月)	北西農委検討会
1・30 (木)	組織・活動検討会